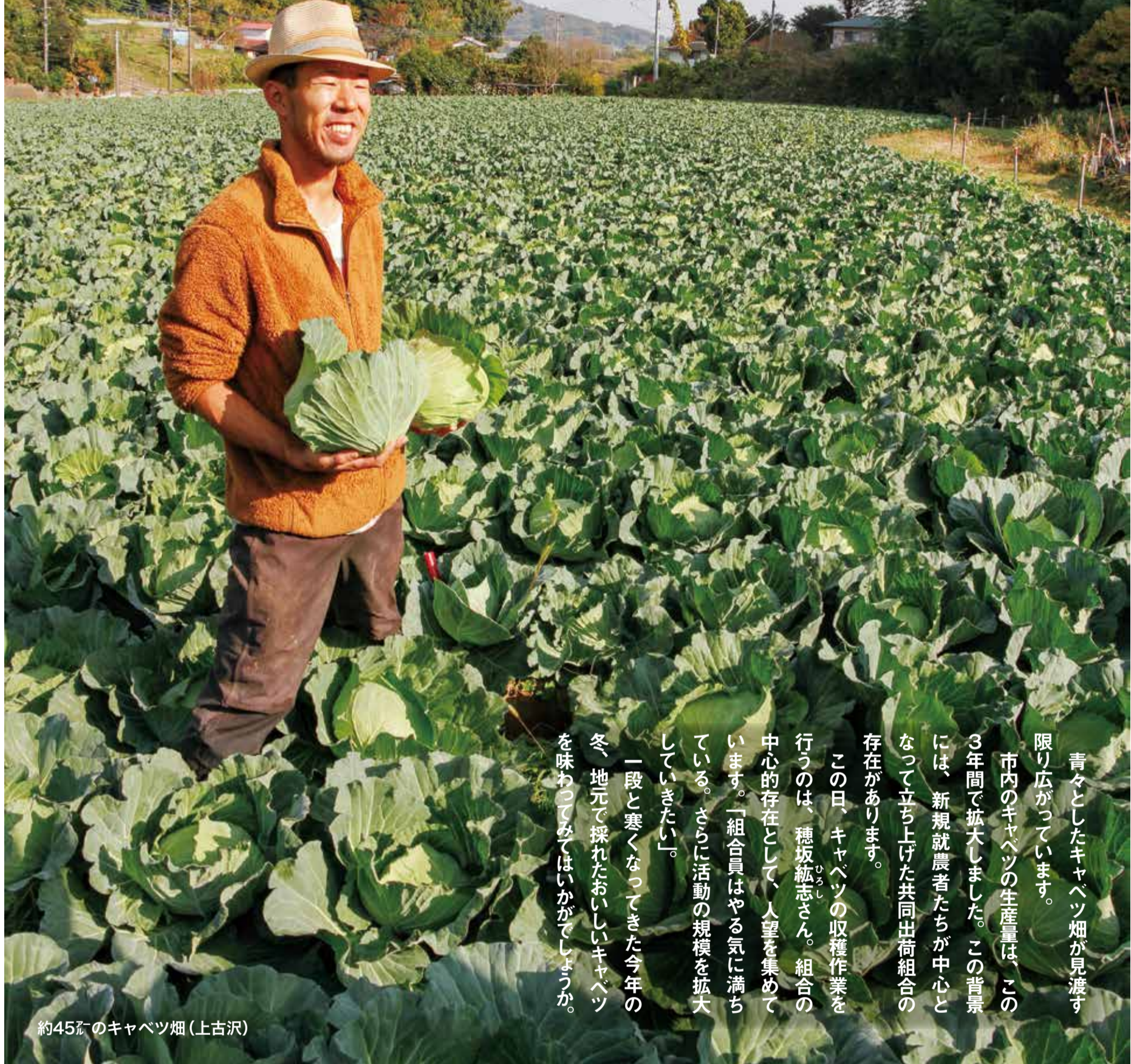


あつぎ

農委だより

2021年
1月1日
第87号
編集・発行
厚木市農業委員会



青々としたキャベツ畑が見渡す限り広がっています。

市内のキャベツの生産量は、この3年間で拡大しました。この背景には、新規就農者たちが中心となって立ち上げた共同出荷組合の存在があります。

この日、キャベツの収穫作業を行うのは、穂坂紘志^{ひろし}さん。組合の中心的存在として、人望を集めています。「組合員はやる気に満ちている。さらに活動の規模を拡大していきたい」。

一段と寒くなってきた今年の冬、地元で採れたおいしいキャベツを味わってみてはいかがでしょうか。

約45%のキャベツ畑(上古沢)



あつぎの未来を担う新しい力

新規就農特集

厚木市都市農業支援センターでは、農業に関する相談のワンストップサービスを実施しています。毎年100件近い新規就農相談を受けており、設立から6年で52人の方が市内で農業を始めています。

市内に3・5畝のキャベツ畑広がる 新規就農者を中心に組合設立



組合の中心として活躍する穂坂さん

見渡す限りのキャベツ畑。ここは七沢にある宮下寛史さん(30)の畑です。50坪の畑では、たくさんのキャベツが収穫を待っています。
近年、市内各地で若い農業者が協力し合いながら、広大なキャベツ畑で汗を流す姿を見ることが増えました。こうした活動は、どのようにして始まったのでしょうか。都市農業支援センターでは、毎年1500件もの相談を受けています。規模を拡大し、経営を安定させたい新規就農者たちは、センターに相談し、農業経営に適した作物の検討を始めました。

「同じ目的に向かって進むためには団結が必要だ」。新規就農者の一人である宇都龍太さんが中心となり、キャベツ共同出荷組合を19年に設立しました。今では、10人の組合員が協力して、活動をしています。

発生からおよそ一年が経過する中、感染症拡大は収束しておらず、予断を許さない状況にあります。一人一人が自覚を持って感染予防に取り組む必要があります。
農業の分野では、豪雨による農作物被害のみならず、農作物や家畜の盗難といった、心が痛むニュースが数多く聞かれました。
また、高齢化や後継者不足を原因とする遊休農地の増加は、本市のみならず、全国的な問題となっています。
こうした状況の中、限りある農地を後世に引き継ぐため、私たち農業委員会は、農業委員・農地利用最適化推進委員が一丸となり、農地等の利用の最適化を推進しています。
遊休地の未然防止や担い手への農地の利用集積・集約化、さらには、関係機関との連携による新規参入の促進など、積極的な活動を行っております。特に、新たな担い手となる新規就農者は、6年間で52人を認定しており、今後の活躍に期待しております。



厚木市農業委員会 会長 堀池 春夫

新規就農から5年へ 新たなステージへ

自分が食べて納得のいかない野菜は、売らない。――。
新規就農から5年。強い意志で農業を続けてきた宇都龍太さん(27)が、昨年、※認定農業者としての一歩を踏み出しました。宇都さんは、かながわ農業アカデミーで農業の基本を学びました。その後、都市農業支援センターに相談し、市内での就農を決意しました。

化して付加価値を高めたいか。それが今求められている。真剣な表情で語る様子は、もう就農したばかりの頃とは違います。
主な販路は、JAあつぎへの直接販売と夢未市などの直売所です。「直売所の顧客は、見た目や価格に惑わされない確かな目を持っている。だからこそ、安全でおいしい農産物を継続して提供できる生産者でありたい」と思っています。



小麦の種を手に自信あふれる表情の宇都さん

さまざまな経験を経て、米・大豆、小麦の栽培が自分にあっている。と確信した宇都さんは、経営規模を拡大し続け、現在では、4畝を超える農地を一人で耕作しています。「コンピニで野菜やお米が安く買える時代。そんな中でどう差別

※認定農業者とは、市の定める農業経営の目標に向けて、自らの努力と創意工夫で、経営改善を行っていくと市や県などが認めた者。



新規就農者紹介 最新機器で効率的農業

及川にお住まいの。人見泉也さん(25)は、かながわ農業アカデミーで、2年間、野菜作りの基本的なノウハウを学びました。その後、JAあつぎに就職した人見さんは、組合員の総合サポートを行うTAC専任担当者として、さまざまな業務に携わりました。
たくさんの農家と触れ合う中で、農業者として独立することを決意した人見さんは、JAあつぎを退職し、18年に新規就農者としてスタートを切りました。

この日、人見さんが操作するのは、最新型の定植機。別の畑で育てられた苗が、素早く均等に植えられていきます。従来のものと比較して、使いやすく、むらなく植えることができます。
「品質が良いのはもちろん、その野菜を大量に提供できること。それが大事なことだと思つた」。この機械の導入により、質・量ともに、より高いレベルでの安定が見込まれます。

方卸売市場に出荷しています。いかに効率的なおいしい野菜を出荷できるか。人見さんは、常に意識しています。その取り組みの一つが、整然と植えられたキャベツの苗に見てと



最新の定植機でキャベツを植える

厚木で新規就農するにはどうすればいいの?

A 新規就農者として認定を受けましょう

農業委員会では、農業の担い手確保のため、新規就農者認定制度を設けています。
JAあつぎの農業塾などで農業技術を習得した方を、積極的に認定しています。認定を受けると市内の農地を借りることができるようになります。

Q 就農後、農地を借りるにはどうすればいいの?

A 貸し借りがお勧めです

農地を借りるためには、農地法に基づく許可を受けるか、農用地利用集積計画に基づく利用権設定を行う必要があります。利用権設定は、農地法の許可に比べて、手続きが容易です。また、利用権設定による貸し借りをを行うと、貸し手・借り手の両者に奨励金が交付されます。
現在、市内では多くの貸し借りが、この利用権設定によって行われています。

Q 就農に関する相談はどのようにすればいいの?

A 都市農業支援センターに相談しましょう

新規就農や農地の貸し借りなどの相談をしやすいするため、14年に、市・農業委員会・JAあつぎが一体となって、都市農業支援センターを開設しました。センターでは、就農に関するワンストップサービスを実施しており、営農相談や貸し借りのマッチングなどの業務を一括で行っています。

都市農業支援センター
〒221-5511

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

お申し込みは農業委員会事務局まで

農業塾 開講
JAあつぎ **あつぎで農業を学びたい!**

◎基礎コース・応用コース

講座とは場での栽培実習を通して、農業に関する知識を学びます。

2月1、2日にJAあつぎ本所に申込書を提出してください。

◎新規就農コース

新たに市内で就農を目指している方を対象に、実践的な講座とは場実習を通して、新規就農者としての知識を1年かけて学びます。
1月12、13日にJAあつぎ本所に申込書と営農計画書を提出してください。その後、面接審査があります。

◎基礎コース・応用コース

講座とは場での栽培実習を通して、農業に関する知識を学びます。

2月1、2日にJAあつぎ本所に申込書を提出してください。

◎新規就農コース

新たに市内で就農を目指している方を対象に、実践的な講座とは場実習を通して、新規就農者としての知識を1年かけて学びます。
1月12、13日にJAあつぎ本所に申込書と営農計画書を提出してください。その後、面接審査があります。

◎基礎コース・応用コース

講座とは場での栽培実習を通して、農業に関する知識を学びます。

2月1、2日にJAあつぎ本所に申込書を提出してください。

息の合った作業をする宮下寛史さん(左)と義生さん

副組合長の穂坂志志さん(29)は、現在小鉢地区を中心に約1畝の畑で、キャベツを栽培しています。「自然を相手にもつかしい思いをするのもある。そんなとき、同じ目標に向かっていく仲間がいることは心強い」と言います。
また、組合員の宮下さんは、弟の義生さん(25)と作業をしながら語ってくれました。「悩みを共有できる仲間ができたことは大きい。義生も組合の活動を見て、ここで新規就農者の仲間入りしたい。おかげでさらに規模を拡大している」。

厚木にできた就農の輪。今後の活躍が楽しみです。

私たち農業委員会は、関係機関、関係団体と手を携え、農業経営のより一層の向上のため、本年も取り組んでまいります。新年が農業者をはじめ、市民の皆さまにとって、希望に満ち、健康で実り多き良い年となりますことを心よりご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

J Aあつぎ青壮年部

福祉施設に花と笑顔を

J Aあつぎ青壮年部萩野支部は、11月12日、上荻野にある障害者支援施設の厚木精華園を訪問し、入居者に花を贈りました。支部長の鈴木貴さん(41)は「コロナ禍でもこうして花が咲いた。強く育つ花を見て、少しでも入居者やスタッフの方が希望を持ってくれればうれしい」と語りました。この日は、精華園のほか、野百合園と紅梅学園の3か所に、パンジーやビオラなど、計400鉢を届けました。

若い力を地域の農業に

1963年、厚木の若き農業者たちが、地域社会の発展を目的に青壮年部を発足させました。今では、地産地消の推進のため、花や野菜をPRしたり、食農教育のため、子どもたちへの農業体験の場を提供したりするなど、農業振興の中核的な役割を担っています。部員同士の交流も盛んです。農業先進地を視察したり、農業技術の向上に向けた研修を行ったり、また、情報を交換し合ったりしています。



地域との関係の大切さを語る中村さん



花を贈る鈴木さん(右奥)と生産者の野口さん(右前)

問題もあります。青壮年部部長の中村允さん(36)は、部員数が年々減少してきていることに警鐘を鳴らします。10年前には72人だった部員数も現在は62人。平均年齢も上がってきています。南毛利地区を中心に1・6畝を耕作する中村さんは「一人で農業を続けることは難しい」と自身の経験から語ります。「農業を続けるには、地域と仲間のサポートが絶対に必要です。仲間と一緒に地域と農業の懸け橋となる青壮年部は、若手農業者にとってきつと役に立ちます」。随時、部員を募集中。興味のある方は、J Aあつぎまでお問い合わせください。

問 J Aあつぎ組織基盤対策課

221-6881



推進委員の活動記録

農業委員会では、農地利用最適化推進委員が中心となって、年間を通して、農地パトロールを実施しています。昨年は、13・98畝を長らく耕作されずに放置された農地(遊休農地)、38・62畝を管理のみで耕作(肥培管理農地)として判断しました。遊休農地は2017年から減少傾向にありますが、肥培管理農地は増加傾向にあります。

農地は一度荒れてしまうと元の耕作できる状態に戻すまでに、多大な労力がかかります。そのため、農地の情報をさまざまな手段で公表する「農地情報みえる化プロジェクト」により、遊休農地化する前に、貸し手と借り手のマッチングにつなげていきます。また、都市農業支援センターや農地中間管理機構と連携し、遊休農地等の解消と農地の集積・集約を推進していきます。

農地利用最適化の意見・要望書を市長に提出

農業委員会では、農業者の代表として、農業生産力の増大や農業従事者の地位向上のため、施策と予算について、意見・要望書を毎年市長に提出しています。

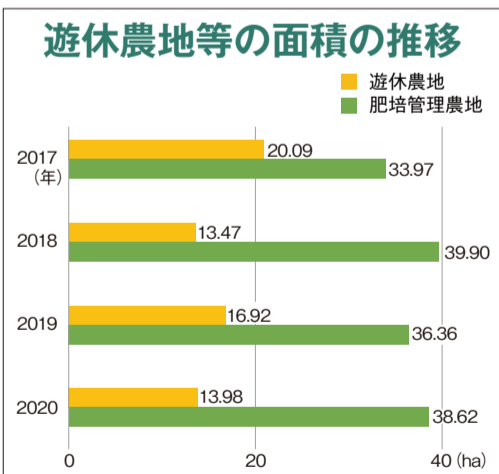
令和3年度に向けた新規意見・要望

- ◎鳥獣被害の防止・病害虫の発生防止策の検討
◎狭あい農地の利用促進策の検討
◎市民農園としての遊休農地等の活用検討
◎特定生産緑地制度の周知徹底
◎共同利用のみ摺り・乾燥施設設置への支援策の検討
◎新型コロナウイルス感染症に伴う影響把握及び対応検討



会長から市長へ要望書を提出(左から三橋理事、堀池会長、小林市長、早川会長職務代理者、井上理事)

その他、農地中間管理機構と連携した耕作放棄地対策など、継続要望を合わせ、20項目の意見・要望を提出しました。



遊休農地: 長らく耕作されずに放置されている
肥培管理農地: 草刈りや耕うんなど管理のみされている

いつでも どこでも 農地情報
農地情報みえる化プロジェクト
スマホで PCで 紙の地図で
市内の農地の貸し付け希望の情報をさまざまな方法で見ることができます
貸し借りをご希望の方は、都市農業支援センターまでご相談ください
全国農地ナビで 市内の農地をみる
市ホームページで 貸し付け希望の農地をみる
JAあつぎ各支所窓口にも各地区の地図も掲示しています

編集手記
私の住んでいる玉川地区では、機械をあまり使わず、多くの品種を少しずつ生産する農家が多い。ご多分に漏れず、農業者の高齢化や後継者不足などで耕作されない農地が増え、地域の農業の行く末を不安に思う。そうした中で、何枚もの農地を集約し、種類の作物が作付けされている様子が、近隣農家の目を引いている。新規就農者たちが共同で生産しているキャベツ畑だ。熱心に農業に取り組む新規就農者の姿は、地域にとって、不安を吹き飛ばす大きなエールになっている。(M)